

	<p>発行 兵庫県公立高等学校 P T A 連 合 会 事務局 〒650-0012 神戸市 中央区北長狭通5丁目5番12号 兵庫県土地改良会館2階 兵庫県公立高等学校PTA連合会 TEL (078) 371-7080 FAX (078) 371-0056</p>
--	---



## 「旬の伸びる高校生活に」

兵庫県公立高等学校PTA連合会  
会長 **丸尾 友明**  
(県立赤穂高等学校PTA会長)

兵庫県公立高等学校PTA連合会は特別支援学校を含む143校PTA・育友会による学校教育の振興に協力し、会員の研修並びに相互の連絡と親睦をはかることを目的とする組織です。加盟の単位PTA会長・会員の皆様におかれましては日頃より本連合会の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、副会長をはじめとする役員・理事の皆様と事務局の力添えにも感謝申し上げます。

我々の住む兵庫県は、摂津・播磨・丹波・但馬・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国から成り立っています。また本連合会はさらに神戸・阪神・丹有・東播磨・西播磨・但馬・淡路の7つの地区で構成されています。各地区や学校を取り巻く環境は異なりますが、同じ高校生を持つ親同士、その健やかな成長を願う気持ちは共通していると思います。これまでも多様な地域が関わり合い、補完し合って発展してきた経緯があることから、PTA活動を通じて活発な交流を行うことで、新たな力を生み出し、地域に活力をもたらすものと考えています。

その交流活動の集大成ともいえる本連合会研究大会・PTCA全県研究大会が11月30日(土)に開催されます。この大会は三田祥雲館高校を主管校とし、丹波地区の各PTA(育友会)や校長会のご協力を得て、丹波市の春日文化ホールで行います。県立高砂南高等学校、県立龍野北高等学校、県立豊岡高等学校のPTCA活動の成果が発表されます。大会に携わ

られた皆さまには、開催に向けてのご尽力に感謝申し上げます。この大会が実り多きものになりますよう期待しています。

私は家業でイチゴを栽培しています。イチゴには、「旬」があります。本来、イチゴの旬は4～5月の1カ月ほどと短いですが、「まるおファーム」のイチゴの旬は12～6月と半年ほど続きます。よい苗を作り、よい株になるように「とことん」育苗管理をすることによって、旬を長くしています。人の旬はいつでしょう。中学や高校など、学生のうちはまだまだ旬ではありません。

人の旬は社会人になってからです。学生のうちは、旬が長く続くように、「とことん」頑張るべきです。頑張れば頑張っただけ、旬は伸びます。勉強に部活、手伝いに遊び、なんでも「とことん」頑張れば旬は伸びます。10代の今が、旬が長くなるために1番頑張る時です。PTA活動も、子供たちの旬が伸びるように、「とことん」応援できる存在でありたいと思います。

高校時代の経験や感動、友情は一生の宝物です。子どもたちが個性や才能を伸ばし、明るい未来を創造するサポートするため、皆さまの活動におきましても「PTAと学校が手を組み、21世紀の若者をたくましく、正しく育てる」という本連合会の趣旨を生かしていただき、未来を担う世代の育成にご協力いただきますようお願いいたします。

## 伝統ある神戸高校のご紹介と PTA活動

県立神戸高等学校

128年の伝統を誇る本校。ロンドン塔や観音開きの窓、三連アーチのファサードなど建物の最も象徴的なモチーフを含む正面玄関周辺を改修して保存棟として残し、戦前から残る数少ない学校建築として、近年ではドラマや映画などの舞台として使用されることもあります。教室からは大阪湾が一望でき、まるで船が空を飛んでいるかのような景色です。そんな環境の中、「質素剛健」「自重自治」の四綱領を校訓とし、その信念のもと学校生活を送っています。

本校PTAでは誰もが無理なく、楽しく、活動できるよう、昨年度よりクジ引きによる強制的な本部役員・各委員の選出を廃止しました。活動例として保護者の声から実現した「食堂体験会」や「学校内散策（PTA本部による校内散策ツアー）」、「お父様向けの珈琲講座」など様々な事業を実施し交流の場となっております。

また、今年度はPTA活動の見える化を目指しており、学校HPで情報発信を行いたいと考えております。そして、生徒の皆様の学校生活をより豊かなものとするため、引き続きサポートしてまいります。

本校生徒の皆様は、入学時は“鵬雛”として、卒業時は“鵬”（おおとり）となって未来へ羽ばたきます。その成長の過程において、保護者や先生方、同窓会の皆様から様々な面でサポートいただき成長を見守っています。一方で世の中を取り巻く社会情勢は、感染症や地震・豪雨などの自然災害や環境などの諸問題、さらに世界中で紛争や貧困等、様々な課題が山積しており、そんな時代に生きる生徒の皆様だからこそ、この伝統ある神戸高校で培った四綱領の精神を実践するとともに新たな発想で、未来を切り開き強く生きていってほしいと願います。

(PTA会長 岡本 由希)

## 発展的統合に向けて

県立伊川谷北高等学校

県立伊川谷北高校は、神戸市営地下鉄「学園都市」駅からも近く、兵庫県立大学・神戸市

外国語大学・神戸市看護大学・神戸芸術工科大学・流通科学大学の5大学がすべて学校から徒歩圏内に位置するという恵まれた立地条件を生かし、各大学と連携した教育や体験活動の推進に取り組んでいます。

来年度には県立伊川谷高校との発展的統合により県立神戸学園都市高校が発足します。県立伊川谷北高校としては残り2年となり少し寂しく思いますが、新しい学校へと生まれ変わっても何も心配や不安を感じる事が無い様、今まで通り子供達が落ち着き充実した学校生活を送れる様PTAとして出来る限り子供達をサポートして参りたいと思っています。PTAも今まで経験した事のない状況にありますが、これからの県立伊川谷北高校の発展に向け学校とも協力しながら新しい形を模索して参ります。

また、コロナ以降自粛していたPTA研修旅行も今年度より再開する事になり、体育大会や、文化祭も無制限とはいきませんでしたがお家の方に来校頂ける様に少しずつですが戻って来ています。少しでも多くの保護者の方に学校へ足を運んでいただき、直接子供達と関わり先生方ともコミュニケーションを取っていただき皆で子供達を見守り陰ながら支えていけるPTAで有りたいと思います。委員会活動などにも今までより沢山の方に参加して頂き新しい学校へのバトンをより良い形で渡せる様残りの2年間をかけ、伊川谷高校とも協力し、お互いの良い部分を残しつつ発展的に新しい学校になればよいと思っています。しかし、初めての経験ですので全てが手探りにはなるかとは思いますが、それは子供達も学校も同じです。発展的統合に向け共に新しい学校の道標となれる様な先を明るく照らしていける様な活動をして行きたいと思えます。

(PTA会長 藤木 友美)

## 学校と地域とのつながり

県立神戸高塚高等学校

本校は、1984年（昭和59年）4月に普通科高等学校として神戸市西神地区に開校し、昨年創立40周年を迎えました。校訓（克己 信愛 創造）の実践をとおして“ひとりひとりが生き生きと個性の輝く学校”を目標とし、人として

調和のとれた生徒の育成をめざしています。そして学校経営の重点事項の一つに「主体的に美



化・清掃活動に取り組む態度を培う」を掲げ、校長先生が「朝、私と一緒に掃除しませんか？」と提案され、賛同してくれた生徒と先生で楽しく清掃活動を続けます。回を重ねるごとに参加者が増え凡事徹底の効果を実感する輪が広がっています。

昨年度より防災ジュニアリーダー拠点校となっていることから、7月には生徒会がリーダー全体学習会に参加しました。過去の災害や防災について学び、地域社会に発信貢献できるよう意見を出し合い、他校生徒との交流を行いました。



また高校生ふるさと貢献・活性化事業の一環として、特色類型の3年生が防災に関わる地域イベントに参加しました。レスリング部員は地域の小中学生を対象にスポーツを通じた交流を行いました。それぞれ開催運営に関わり平素と違う立場を体験すると、視点が変わり学びも多く、関係する方への感謝の気持ちも高まり良い経験となりました。



過去感染症の影響で人が集う活動を休止した際、身近な社会とのつながりを避ける傾向となり、結果PTA会員同士の関係も希薄になってしまいました。各方面で活躍している子どもたちを後押しする傍ら、出資だけでなく日常をサポートする保護者同志のつながりを深める機会を設け、学校活動全体を盛り上げていきたいと思ひます。さらに本校での教育活動が未来への懸け橋となり、自分の意思で判断し行動できる人材を育てるために子どもたちに寄り添い、学

校・地域・保護者のパイプ役として活動してきたいと思ひます。

(PTA会長 小林 尚子)

## 神戸工業高校のPTA活動

県立神戸工業高等学校

本校は、明治45年に兵庫県立工業学校夜間部として勤労青少年のために必要な工業教育を行うことを目的として設置されました。その後、独立、学制改革に伴い、現在の兵庫県立神戸工業高等学校となり創立112年となります。

県下最大規模の夜間定時制工業高校である本校は、建築科、機械科、電気科、情報技術科の4学科があります。校訓である「素朴・勤勉・根性・自主性」の理念のもと、規範意識や公共の精神、他者への思いやりや他者と協働する能力を備え、社会の中で自分の役割を果たしながら、工業技術者・技能者として地域に貢献できる人材に成ることを期待しています。

PTA活動の主なものとして、年4回のクリーンプロジェクト、小学生親子工作教室の開催、隔年で行われる、体育祭・文化祭への参加があります。

クリーンプロジェクトでは、生徒・先生方と近隣の清掃を行い、地域の美化に貢献しています。



小学生親子工作教室では、『地域と児童生徒とのコラボレーション活動』の一環として毎年、各科持ちまわりで本校の生徒達が小学生にもものづくりの楽しさや喜びを伝えるというものです。今年も先生方のご協力のもと、大盛況でした。

現況は、昨今の少子化に伴い本校も生徒数が減少。育友会参加者も少なくなりました。それに伴い今年度より、入学生保護者全員＝クラス役員としました。PTA理事会やSNSを通じて気軽に見解を出してもらい、活発な意見交換がなされるようになりました。まだまだ試行錯誤中ですが、学校・地域と連携し、子供たちの笑顔を守っていくお手伝いできればと思ひます。

(育友会長 松下 和美)

## できる人が、できる時に、できる事を

県立尼崎稲園高等学校

本校は1978年、昭和53年に尼崎、猪名寺に開校いたしました。

平成27年(2015年)の兵庫県の学区改編以降、地域の皆様からの衆目を集める学校となり、進路面において、昨年度の卒業生は、京都大・大阪大・神戸大等の国公立大学に150名近く、また関西の難関私大に多くの生徒が合格し、日頃の成果を大いに発揮し健闘いたしました。

本校には学ぶことに意欲の高い生徒が多く、普段の授業の場面だけでなく、部活動や個人の活動に積極的に取り組む生徒、海外で多くの経験を積んでいる生徒などがいます。各方面でリーダーシップを発揮し、組織の中心となる資質を持った生徒が数多く在籍しており、本校の教育の柱に「世界のリーダー育成」を掲げていますが、それを具現化する人材が多くいるのは頼もしい限りです。

穏やかな校風で、「克己自立」「敬愛協同」「日新創造」の校訓のもと、今年度は「セイカイよりも、セカイをめざして！」(生徒考案)をキャッチフレーズに、生徒たちは日々様々な活動に邁進しています。

稲園高校では、PTA役員を立候補制で募集しており、今年度は10名の執行部役員と、お手伝いくださる評議員とで活動しています。新型コロナウイルスの影響下で組織を縮小・簡素化しましたが、現在も少人数での活動を継続しています。

PTA活動においても中止や縮小などの対策をとっていましたが、昨年より少しずつ復活してまいりました。

6月末に開催された文化祭では、パンやおにぎり・クッキー・マフィン・ジュースなどの飲食物の販売に加え、卒業生から譲り受けた制服のリサイクル販売を行いました。昨年同様、たくさんの好評をいただき、子供たちと交流し笑顔をたくさん見られたことは、私たちの財産になりました。

今後も「できる人が、できる時に、できる事を」をスローガンに、保護者の皆様や先生方と力を合わせ、頑張っている稲園生を支え応援してまいります。

(PTA会長 吉村 直子)

## 柔軟性のあるPTA活動

県立川西北陵高等学校

本校は、川西市北部の緑豊かな高台にあり、生徒の8割が自転車通学とまさに地元校です。学校の駐輪場から校舎へ登る険しい188の石段は、体力が養われるとして有名です。昨年創立40周年を迎えて卒業生は1万2千人を超えました。社会の各方面で活躍されている話を聞くたびに、誇らしく思うとともにご指導をいただいた先生方へ感謝いたします。

さて、本校のPTA活動は平成30年に「新しいPTAのかたち」を提案され、活動の適正化を目指して活動の在り方を実態に適合するように見直し、委員会を廃止してサポーター制度を導入されました。当時としては珍しく実現するまでに多くの時間を費やされたと言えます。この改正で保護者の負担は軽減され、意識改革へ繋がりました。他には、学校、地域自治会、特別施設、と協力し川西市へ自転車通学路安全確保の要望書を提出する、後に自転車専用道路が整備されました。



また、コロナ禍においては消毒液やマスクの手配、ミマモルメの導入など必要性に応じて迅速に実行しました。この様にPTA活動を実感する一方で、小、中学校のPTA解散の加速や岡山県PTA連合解散などのニュースは耳を傾けざるをえません。少子化対策として教育委員会が発表した、発展的統廃合計画は無視できない内容です。今後も情報が錯綜する中、聴き分けて正しい方向へ進むよう協議を重ね取り組みたいと思います。

(PTA会長 水口 愛)

## 『知る』『見る』『触れる』素晴らしさ

県立西宮今津高等学校

本校の魅力は何と言っても自分のやりたい事、興味ある事を大いに実現することの出来る総合学科であるという事です。総合学科とは将来の進路を考え普通教科・科目と専門学科・科目にわたる幅広い選択科目の中から自分で科目を選択し学ぶ事が出来る学科です。

西宮今津高校のPTA会長を務めさせて頂き早いもので半分が過ぎましたが、その間に子供たちは文化祭や海外研修交流（ニュージーランド生の受け入れ）などこの学校だからこそ出来る活動をしています。その経験を通して「自分の考えを人に伝える力」を深め、仲間を思いやり、一生懸命に応援する気持ちを表現し、自分とは異なる価値観や習慣を受け入れる体験をして心も身体も大きく成長する姿を私たちPTA役員はたくさん見させて頂きました。それと同時に先生方は、子ども達の日々の教育や生活のサポートをしながら開かれた学校作りをする為の活動もされており、次年度の教科書の選定や食堂メニューの内容・価格改定についての話し合いでは幅広い意見を取り入れる意向から私も参加させて頂きました。生活環境の急激な変化に問題を抱えながらも常に子ども達の事を考える会議が行われ、献身的で愛情深い先生方の想いに触れることができ、感謝の気持ちが溢れました。今後の西宮今津高等学校ではICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校として文部科学省の支援を受けた『高等学校 DX 加速化推進事業』（DXハイスクール）という最新の取り組みも始まるそうです。今の私たちの想像を超える『知る』『見る』『触れる』体験が出来る子どもたちの未来が今から楽しみです。

(PTA会長 西本 理恵)

## 国際高校での教育活動とその支援

県立国際高等学校

本校は、県内で唯一の国際科のみからなる単位制高等学校で、今年度で創立22年目を迎えます。スクールミッションに基づき、国際社会に貢献し、国際社会で活躍できる人材になること

を目指し、生徒たちは年間を通じて他校にはない特色ある教育活動を行っています。

その中の一つとして、夏休みが始まってすぐに実施される国際交流セミナーを紹介します。2024年7月に開催されたこのセミナーでは、2日間で延べ52名の兵庫県内のALTが来校し、ワークショップなどを通じて本校生徒と交流をしました。生徒たちはALTの方々と交流する中で、他国の文化に触れ、多文化理解や多文化共生の意義を学びました。ワークショップ内では、ALTの出身国のことについて学んだり、生徒自身のお気に入りのものをプレゼンテーション形式で発表し、質疑応答に答えたりしました。また、文化や言語の違いから起きる誤解（cultural misunderstanding）をテーマにグループ内で意見を出し合い、その状況をみんなで再現するなどのパフォーマンスも行いました。最後に、英語ゲームを行い、交流を深めながら英語力も向上させました。

PTAとしては、このセミナーの支援としてALTの交通費の準備などのサポートを行いました。このほかにも、6月には花壇の草抜きや落ち葉掃除、そして新しい花の苗を植えるフラワーボランティア活動を実施しました。また、文化祭ではリユース品として寄贈された約80着の制服や体操服を必要とする生徒に配布するため、多くのPTA委員が協力しました。2学期以降には広報誌「あしやはま」の作成も予定しています。このように、本校PTAは生徒たちの教育活動を支援するため、役割を分担して協力してまいります。

(PTA会長 坂井 睦)

## 育友会の未来は

県立有馬高等学校

本校は、前身となる有馬農業補習学校から数えて、今年で創立128年目を迎えます。

「つよく きびしく たのしく」を理念とする校訓『まこと』を礎に、生徒たちは「有高生」としての生活を送っています。

育友会は、生徒たちの高校生活が楽しく充実したものになるよう、また、本校が地域に信頼される学校であり続けるよう、一年を通じて様々な活動を行っています。

育友会は、本部に加え、国際交流部・指導部・福祉部・研修部・広報部・1 学年部・2 学年部・3 学年部で構成されています。各部委員の皆さまには日頃からご協力をいただき感謝申し上げます。昨今、全国的に育友会・PTAを取り巻く環境は、保護者の負担が社会問題になるなど、非常に厳しく、憂慮すべき事態に陥っています。そのため、多くの学校が、これまでにない深刻な状況に苦慮されています。

本校育友会は「明るく元気に、皆が楽しく」をモットーとしていますが、例に漏れず、戸惑うことがたくさんあります。

それでも、私たちは子どもたちのために、何もしないわけにはいきません。確かに育友会そのものを無くしてしまうのは簡単でしょう。しかし、「無」から何かを作り出すというのは大変な困難を伴います。私たちは、長く育友会が存続できるよう知恵を出し合い、負担を減らす方向で誰もが活動できるよう努力しています。

保護者の皆さんに、「自身の高校生活を楽しむように育友会活動も楽しむんだ」、と思っただけの育友会になっていくことを願ってやみません。

(育友会会長 小坂 博美)

## 地域に愛される小規模校

県立篠山東雲高等学校

本校は、昭和23年10月に兵庫県立篠山農業高等学校東雲分校として開校し、さまざまな変遷を経て、平成23年4月に兵庫県立篠山産業高校から独立し、現在の篠山東雲高等学校が誕生しました。地域農業科という特色を生かし、丹波篠山市の特産品である丹波黒大豆や山の芋の栽培をはじめ、畜産や食品加工など幅広く地域の農業を支える人材を育成しています。近年は、地域の課題である野生鳥獣による農作物の被害対策に取り組み、テレビや新聞にも大きく取り上げられました。

1 学年 1 クラスという小規模校で、生徒と先生、保護者と先生の距離が近く、アットホームな学校です。6 月に行われた体育祭では、平日にもかかわらず生徒と同じくらいの保護者やその家族が観覧しました。農業高校ならではのユニークな競技もあり盛り上がりました。

11月に行われた文化祭は地元の福住地区まちづくり協議会との共催で「福住祭」として盛大に開催されました。生徒だけでなく学校近くの住民の方の展示や発表もあり、学校が地域のコミュニティーの拠点となっています。PTAとしては模擬店を出店し、「福住祭」の盛り上がりにも貢献しました。



7月と12月に行われるクリーン作戦にPTAとしても参加し、生徒とともに学校のある福住地区のゴミ拾いや草刈り、清掃を行いました。福住地区は、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、かつての宿場町の面影と美しい農村風景が多くの来客者を魅了しています。多くの人に愛される福住地区でもあり、ゴミはほとんど落ちていなく生徒とともに観光地の散歩をしているような活動になりました。

兵庫県教育委員会は高校教育改革により、丹波地区の4校の高校を2校に発展的統合をするとう発表しました。本校がその対象となるかどうかは未定ですが、本校のような小規模校だからこそ学べるものが多くあります。たとえ、どのような状況になろうとも、本校のアットホームな教育は、残してほしいと願っています。

(PTA会長 高仙坊 博之)

## 創立100周年を迎えて

県立三木高等学校

本校は大正13年に三木町立実科高等学校として創立され、令和6年度に創立100周年を迎えました。

5年前から育友会本部役員の皆様には100周年実行委員会にご参加いただき、学校、同窓会、育友会が一丸となって準備を進めてきました。100周年記念事業として、校門の整備、図書室・食堂の改修、グラウンド観覧席の改修、懸垂幕装置の設置などを行い、子どもたちが安心して快適に学校生活を送れる環境が整いました。通年の育友会活動に加え、100周年実行委員会の活

動も行っていきます。

6 月に開催された文化祭「釜城祭」では、「百様玲瓏」というテーマのもと、多くの来場者を迎え、盛況でした。展示や発表、模擬店などで素晴らしいパフォーマンスが繰り広げられ、生徒たちの笑顔や元気、団結力を感じることができました。また、100周年を記念して育友会では飲料販売ブースと缶バッジ作りを出店しました。

缶バッジ作りのブースは、直近10年の本部役員のOB・OGの皆様が学校を訪れていただく機会を提供し、コロナ禍で途切れていた縦のつながりを強化することを目的に企画しました。育友会員も楽しみながら親睦を深め、縦と横のつながりを強めることができました。



さらに、本年度、本校は文部科学省の「DXハイスクール」と兵庫県の「ひょうごリーダーハイスクール」に指定されました。国際交流や新たな文理融合教育、デジタル教育の推進を通じて、地域と世界をつなぎ、新しい時代を切り拓いていこうとしています。

現代社会の変化は非常に速く、「第4次産業革命」の進展や人口減少社会による経済・社会の変化の中で、高校教育を取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。このような時代だからこそ、学校、家庭、地域、育友会が協力し合い、一体となって進めていくことが重要であると考えています。異常気象や災害なども含め、時代の流れに順応しつつ、伝統を重んじ、変化するべきこととそうでないことを見極めながら改革を進めていきたいと思ひます。育友会活動が負担にならず、有意義で楽しい価値ある活動となり、子どもたちの学校生活が安全で充実したものになるよう努め、次の100年へとつなげていきたいと考えています。

(育友会長 大林 憲吉)

## 創立60周年を迎えて

県立東播工業高等学校

本校は、東播磨地域の産業界の強い要望のもと、地域社会に貢献できる専門的職業人を育成するため昭和39年に開校し、令和6年10月に創立60周年を迎えます。創立当初は機械科、電気科、土木科3学科からスタートし、昭和45年には建築科が新設され、4学科体制として現在に至っています。

数年前からXやYouTubeなどのSNSを使い、PTAではグループコミュニケーションアプリ「BAND」を導入し情報発信に力を入れています。「健やかに 伸びよう 汗だして」の校訓のもと、取り組んできた活動には、次のようなものがあります。企業と連携しての現場実習型インターンシップ、地域との交流を図るふるさと貢献（修理・修繕）事業等を実施し、地域社会に貢献する精神を育てています。また、夏休み工作教室では、ものづくりの楽しさを小学生に伝えています。クラブ活動では、映像演劇部とフェンシング部が令和6年度の全国大会に出場し活躍しています。また、ものづくりの大会においても、旋盤、木材加工、測量、電気工事職種など毎年優秀な成績を収めており、技が着実に伝承されています。

私はPTA活動に携って7年、会長として3年目になりました。PTAでは年間を通して様々な活動をしています。評議委員の定例会、年3回の登校指導、ボランティア清掃活動、講師を招いての研修会、広報誌の年2回の発行、制服リサイクル販売（収益金は被災地に寄付）などがあり、研修旅行についても、コロナ禍から5年ぶりの開催を計画しています。また、毎年7月

には、生徒会との懇談会を開催しており、学校生活や行事において、意見交換をしています。そうした子どもたちの自由な発想力や行動力で、活気に溢れた学校生活を送れるよう、保護者、先生方、地域の方々との連携を深め、



60周年という節目にさらなる発展を目指して活動していきたいと思ひます。

(PTA会長 増田 満喜子)

## 大地に生きる播農生

県立播磨農業高校

本校は文部科学省から指定を受けた兵庫県で唯一の農業経営者育成高等学校です。「農業経営科」「園芸科」「畜産科」の3学科を有し、西日本最大級の32haという広大な校地で、体験を重視した実践的な農業経営が学べます。

その広大な校地で生徒たちは、『命』と向き合いたくさんの動物、果樹や草花などを365日交替で休みなくお世話をしています。大切に育てた畜産や農産物を製品にして売却するという一連の流れを生徒自身でおこなっており、一人一人に役割があり、責任を担い、泥だらけになりながらもやり遂げる。その姿は一生懸命でまだ幼さの残る顔も頼もしく見えてきます。

そんな生徒達の頑張りにより、近年様々な分野で沢山の賞を頂くことができています。大人達はその都度、驚かされ嬉しい誇らしい気持ちを貰っています。

また、寄宿舎教育を通じて、自立心、自律性、協調性、責任感、コミュニケーション力を育みます。これらの強みを生かし、農業を愛し、豊かな知識と確かな技術を備え、夢と志をもって21世紀の兵庫の農業と地域社会の発展を担い、国際社会で活躍できる人材を育成することが学校の目標です。

PTAはそんな生徒たちの一番の理解者であり応援者として自立心を奪わないように出すぎることなく縁の下力持ちとして日々活動しています。

「広大な教室×あなたの夢中=明日の農業 ～大地に生きる播農生～」

をスローガンとして、変化を恐れず、何事にも挑戦し、日々ステップアップすることを意識させた教育活動を展開することで、在りたい未来を創造する力の育成に取り組み、また、こころ豊かで自立する人材育成に向け、生徒一人ひとりが本来持っている潜在的な力を引き出すことのできるよう指導するという教育方針に賛同し、先生方とPTAが同じ方向を向いて生徒たちの未来のために尽力して行きたいと思ひます。

(PTA会長 横田 泰加)

## 創立70周年を迎え、 変化し続ける「明商」

市立明石商業高等学校

本校は、昭和28年に「自立・親和・感謝」の校訓をもとに設立し、今年度72回生を迎えた明石市唯一の市立高校です。

昨年度には「70周年記念式典」も開催され、現在2万4千人に迫る卒業生を輩出する県下でも最大規模の専門高校として、実業界の中核で活躍し優れた力量を評価されている卒業生を多く輩出しています。

県下の商業高校の中では生徒数が最も多く、クラブ活動も非常に活発で、多くの部が全国大会へ出場するレベルとなっており、活躍が著しいですが、熱心な顧問の先生方の指導の下、どの部活動も日々一生懸命に練習に励み、充実した高校生活を送っています。

令和6年度には、新たに「福祉科」が開設され、第1期生を迎えました。福祉科では介護福祉士国家試験受験資格を習得し、3年生の1月には国家試験を受験します。

現在は、商業科と国際会計科(2、3年)、福祉科の3学科で構成され、活気に満ちた専門知識と資格を身につける専門高校となりました。

PTAの活動としては、自転車運転マナー向上の啓発運動の一環として通学見守りや、魚住地区のクリーン活動などを行っています。今後も、学校教育活動の更なる発展を願ひ、学校と地域と保護者を繋ぐ役割を担っていかれたらと思ひます。

生徒達が有意義で充実した高校生活を送れるよう、校長先生をはじめとする先生方と協力、連携し、サポートしながらPTA活動をしていきたいと思ひます。

そして、「その先の自分を創る！」をモットーに、夢や目標に向かって日々チャレンジし、未来を切り拓く為に頑張っている子供達の健やかな成長を、保護者として応援し、一緒に見守っていかれたらと思ひます。



(PTA会長 郷原 美穂)

## 生徒達の影の応援団 PTA

県立姫路西高等学校

本校は、6 郡組合立姫路中学校として、1878 年 (明治11年) 8 月 8 日に創立し、本年度創立 146 年となる県下でも屈指の歴史ある高校です。

校訓は、「質実剛健」「自主創造」「友愛協調」で、生徒達はこの校訓に基づき、勉学のみならず、青春時代の貴重な西高生活を送っています。

中でも新入生歓迎会を兼ねて、毎年 4 月に 2 日間に渡り行われる文化祭は、この校訓が活かされています。新 2 年生が学年展示、新 3 年生が 2 つの劇団に分かれて、自主作成の本格的な劇を行います。4 月に行うので、前学年時の旧クラスから、シナリオライター・役者・大道具・小道具・音響・照明の各ポジションで、約半年前から準備をします。文化祭運営はオープニングから全て生徒達が自主的に創造しています。だからこそ、生徒・先生・保護者の記憶に残り、感動する文化祭が出来上がるのです。自主的に仲間と共に創造した経験は、その後の人生でも活かされていくことなのでしょう。PTA でも文化祭 1 日目に PTA 喫茶を開店し、陰ながら生徒達を応援します。

また、生徒達は、文化祭だけでなく、日頃から文武両道で高校生活を送っています。クラブ活動での近畿大会以上の実績は、姫路西高グラウンド東側フェンスに横断幕が出ます。その数がフェンスいっぱいになることがその証ともいえます。

PTA 役員は、各学年 20 名の総勢 60 名体制です。1 年生役員は広報誌作成、2 年生役員は大学研修旅行企画、3 年生役員は上記 PTA 喫茶を担当し、全学年では交通安全挨拶運動、入学式・文化祭・体育大会・卒業式の交通当番等を行っています。これらの活動を通じて、生徒達を見守りながら、先生方と保護者の交流を図っています。

(PTA 会長 山本 清尊)

## 今後の PTA 活動について

県立佐用高等学校

本校は兵庫県南西部に位置する佐用町にあり、明治 42 年に佐用郡立農蚕学校として開校、昭和 23 年に兵庫県立佐用高等学校と校名を変更し、令和 6 年度には創立 115 年を迎える歴史ある学校です。1 学年に農業科学科 1 クラス、家政科 1 クラス、普通科 3 クラスの計 5 クラスある全日制高等学校で、校風「明るくいいき」と、校訓「自主独立 敬愛協力 創造工夫」の精神に基づき「まちを支える人づくり」をスローガンに、地域連携・貢献を中心に魅力ある学校づくりに励んでいます。

今年 6 月には、コロナ禍後 2 回目となる一般公開での塔陵祭(文化祭)を生徒、教職員、PTA が一丸となり開催しました。地域の方々も多数参加してくださり、盛大な塔陵祭となりましたこと、誠に嬉しく思っています。

昨年度の PTA 活動は、「どれだけコロナ禍前の状態に戻せるか」を目標に活動させていただきました。幸い前会長を始めとする PTA 役員、教職員の方々のご尽力もあり、ほぼコロナ前の活動状況に戻すことができました。

しかし、今後は町内人口の減少や少子高齢化の加速により、生徒数の減少に伴う PTA 会員の減少が見込まれており、人的にも、予算的にもこれまで通りの PTA 活動が出来なくなる日も近いと感じています。なればこそ、今後も必ず継続すべきことをはっきりさせ、その上で出来ること、出来ないことをその都度検討し、簡略化出来るところは簡略化し、節約できるところは節約していかなければ未来は無いと思い活動させていただきます。

今後も佐用町の最高学府という自覚を持ち、地域と更なる連携をしながら、よりよい佐用高校を目指して PTA 活動をしていきたいと思っております。



(PTA 会長 小松 圭)

## PTA活動で交流を

県立山崎高等学校

本校は、明治40年山崎町立技芸専修女学校として創立し、昭和23年に現在の校名である県立山崎高等学校になりました。平成19年に創立100周年を迎え、平成29年に普通科に教育類型を設置、令和3年には森林環境学科と生活創造科を統合し、森と食料を設置しました。創立117年の歴史や伝統の中でも、時代に応じて変化してきました。「未来を切り拓く人を育てる」「夢かなう山高」生徒も先生方も色々な事にチャレンジしている学校です。



PTA活動では、ピザ焼き体験を行いました。本校にはなんと立派な石窯があります。PTA会員はもちろん、小学生の子供たちも参加し生地から手作りで調理していきました。トッピングも好きな具材をのせて、大人も子供も楽しい体験が出来ました。もちろん、とても美味しかったです。当日、部活動をしていた生徒にも差し入れをして喜んでもらえました。

コロナでこの様な活動が制限されて来ましたが、今回のピザ焼き体験がPTA・学校・地域が一つになって「山高」を盛り上げるきっかけになれば幸いです。

(PTA会長 八木 茂則)

## 世界へ羽ばたく姫商生！

県立姫路商業高等学校

本校では、グローバルな視点で生徒の成長をサポートする取り組みを積極的に行っています。先日、音楽座の皆さんをお招きし、シアターレーニングを通じて表現力や創造力を高める貴重な体験をしました。生徒たちは、生き生きとした学びの場で、自分の感性を伸ばす機会を得ました。

また、本校初の海外インターンシップ



JFTベトナム就業体験

として、姫路生花卸売市場さんのご協力のもと、9名の生徒がベトナムのホーチミンで就業体験を行いました。この活動には、PTAや後援会の会費からの援助もあり、生徒たちは安心して挑戦する事ができました。異文化理解を深め、グローバルな視野を広げる貴重な経験となりました。

さらに、地域創生部はフィリピンで「日本とフィリピンの高校生による気候変動・防災フォーラム」をテーマに国際交流を行いました。現地の高校生と共に気候変動や防災について議論し、両国の未来を考える素晴らしい機会となったと思います。

これらの活動を通じて、姫商生はますます世界で活躍する力をつけています。今後も、さらなる挑戦を続ける彼らを保護者として後押ししていきたいと思います。

(PTA会長 瓜本 靖子)



フィリピン教育省表敬訪問

## 香住高校のPTA活動について

県立香住高等学校

本校は昭和21年に「兵庫県立香住水産学校」として開校し、昭和27年に現在の「兵庫県立香住高等学校」へ学校名を変更し、令和7年には80周年を迎え、兵庫県内唯一の普通科と海洋学科を併設する学校です。普通科では、令和4年度から「学科融合型コース」に改編され、大学進学などのニーズに対応するため、少人数制によるきめ細かい指導をする「アカデミックコース」、海洋科学科の「水産海洋基礎」「水産海洋科学」「海洋探究」を選択科目に取り入れた学科融合と幅広い選択科目の学びが特色の「アクティブコース」の二つの類型を持ち、海洋学科では、漁業・操船・船舶の仕組みについて学ぶ「オーシャンコース」、生物や環境に関する知識や技術の修得を目指す「アクアコース」、食品の調理や加工などについて学ぶ「シーフードコース」に分かれています。

本校のPTA本部役員は、会長1名、副会長3名、監事3名、会計1名の8名体制で組織されており、地区代議員16名が校外生活部、学年代議

員16名が総務部、学年部に分かれ、活動を行っています。校外生活部では、年2回花いっぱい運動として生徒いっしょにプランターに花を植えて町内の保育園、幼稚園、小学校に配布したり、通学マナー指導・実態調査を行っています。総務部では会報誌「海龍」を年2回発行しています。学年部では、クリーンアップ作戦として、生徒が集めてきた学校周辺のごみの分別作業を行い、また海龍祭のバザーでは昨年到现在まで牛丼販売を行いました。

最後に特色ある学びを通して生徒一人一人の個性を伸ばし、これからの未来を創造する、心豊かで魅力あふれる人材を育成するため学校・地域・保護者のパイプ役として活動していきたいと思っています。

(PTA会長 田村 慶太)

## 社会に出る準備を

県立八鹿高等学校

但馬の中央に位置する八鹿高校は、創立128年目を迎える県内でも有数の伝統校であり、「八高」(はちこう)の愛称で広く親しまれています。本校の校訓でもある「尋師訪友 克己 勉励」は、池田草庵先生の青谿書院記と論語顔淵第十二記を基とし、師の教えを請い、友と語り、自らの学問をつくるという意味の通り子ども達は学習、部活動、行事にも三刀流で日々自己研鑽に努めています。今年度から自然科学コースから改編された文理探求科では自然科学分野と人文社会分野を融合した学びを展開し、人と自然が豊かに共生するふるさとの魅力と可能性を世界に発信できる人材育成を目指し、論理的思考や課題発見、社会に出てからの対応を身につける取り組みを実践しています。



PTCA清掃活動

その他にもPTAと同窓会からの支援のもと、昨年度から国際交流事業も再開。オーストラリアで語学研修とホームステイを行っています。PTAでは、活動の一つに、7月の夏祭りYBファブのナツフェスの翌日に地域の方々と共に

PTCA清掃活動も行っていきます。

生徒の多くは、卒業後進学し、地域を離れていきます。そのサポートとして神戸の東灘に但馬地区の高校生を対象に「但馬寮」の運営も行っていきます。

子ども達が高校時代に得た友人との絆を深め「ふるさと」の温かい思い出を大切に、いつか「ふるさと」に恩返ししてくれることを願いながらPTA活動を楽しく進めていきたいと思っています。

(PTA会長 田村 元洋)

## 本校のPTA活動について

県立淡路三原高等学校

兵庫県南あわじ市は農業が非常に盛んで、市町村別の農業産出額では近畿で1位。特に淡路玉葱の生産が有名です。淡路玉葱はその甘さと風味で全国的に知られており、地域の特産品として多くの人々に愛されています。そんな三原平野に位置するのが、本校、兵庫県立淡路三原高等学校です。

本校は、兵庫県立三原高等学校と兵庫県立志知高等学校の統合によって平成19年4月に開校。校訓の「自強・敬愛・叡智」をもとに、文武両道の教育を推進しており、未来への深い洞察力と豊かな人間性をそなえ、高い知性、すぐれた徳性と強い意志、健やかな体をもち、社会の発展に寄与する人づくりをめざすことを教育方針に位置付けています。

そんな兵庫県立淡路三原高等学校のPTA本部役員は、会長1名・副会長3名・会計2名・監査3名・顧問2名で構成されています。また特別委員会として、健全育成委員会・会報発行委員会・研修委員会が、学年委員会として各学年1名の正・副委員長が設けられています。

PTA活動は、特別委員会が中心となって実施しています。PTA会報「ゆずりは」の年2回の発行や文化祭への出店参加のほか、芸術鑑賞会、交通安全・マナーアップ街頭指導、夏祭りでの校外巡回などがあります。課外活動後援会事業や部活動支援事業による、教育活動の支援も行っていきます。

これらPTA活動は、3年間の高校生活を充実させるための裏方活動とも言えるでしょう。社会の移り変わりとともに、PTAへの考え方やそのあり方も変化していきます。その変化は、主人公である子どもたちをより輝かせるものとなることを願っています。

(PTA会長 池本 達哉)

## 兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり

～「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力」の育成～

### 兵庫県教育委員会

兵庫県公立高等学校PTA連合会の皆様におかれましては、平素より、本県の教育行政の推進にご支援いただくとともに、身近な存在として、学校を支えていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本県では令和6年3月に、国の教育振興基本計画を参酌し、「兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり」を基本理念とした第4期「ひょうご教育創造プラン」を策定し、今後5年間の兵庫県における教育の指針を示しました。本プランでは社会情勢や教育環境の変化を踏まえ、標題の通り「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力」の育成を重点テーマとし、県立高校においては、社会の変化に柔軟に対応し、「学びたいことが学べる魅力と活力のある学校づくり」を進めています。

先行き不透明な予測困難な時代においては、知識や技能の習得だけではなく、実社会の新たな課題を発見し、解決に向けて模索・探究していく課題解決能力や創造力を育成していくことが求められており、大学においても、総合型選抜や推薦入試の拡充等、高校での学びを重視した入試改革が進められています。

こうしたことを踏まえ、本県では県立高校において、STEAM探究科や文理探究科、地域科学探究科といった探究活動を学びの軸に据えた新しい学科の設置を進めるなど、各校の魅力・特色づくりを推進しています。加えてHYOGOグローバルリーダー育成プロジェクトとして、最先端の学びによりグローバルに活躍できる人材育成を目指す

学校を「ひょうごリーダーハイスクール」として指定する事業や、高校生の海外留学を促進することで、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を図る事業にも取り組んでいます。

また、県立特別支援学校においても、今年度より「兵庫県特別支援教育第四次推進計画」に基づいて、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に過ごすための条件整備と、一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の整備を両輪として、インクルーシブ教育システムの実現に向けた取組を一層推進していきます。

魅力や特色ある学校づくりには、PTAをはじめとして、地域の方々や自治体、企業など、地域社会と協働することが重要です。県教育委員会では、各県立高校や特別支援学校において、特色ある教育を地域と一体となって築きあげていく仕組みづくりとして、「兵庫県版コミュニティ・スクール」の取組を進めています。

また「PTCA活動支援事業」においては、PTAの皆様を核として、地域の方々（Community）とともに、学校や地域の特色を生かした取組を推進していただいております。

本県ではこれらの活動を柱として、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を支援してまいります。

兵庫県公立高等学校PTA連合会の皆様には、学校・家庭・地域を結ぶネットワークの要として、本県教育の発展にご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## ●●●●事務局だより●●●●

兵庫県公立高等学校PTA連合会会員の皆様には、平素から各事業へのご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は7月に第49回近畿高P連京都大会、8月には第73回全国高P連茨城大会が、現地参加およびオンライン参加での開催となりました。兵庫県からは、多数の方々にご参加いただきありがとうございました。

ご案内のとおり、11月30日に兵庫県高P連研究大会が丹波市立春日文化ホールで開催されます。今年の担当は丹波地区で、主管校の三田祥雲館高校をはじめ実行委員会のPTA（育友会）の皆様及び先生方には大変なご尽力をいただいております。ありがとうございます。

大会において、PTCA活動の研究成果を発表いただいた指定校の各会長様、また「高P連ひょうご」に寄稿いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

### 今後の行事予定

- 令和7年1月24日(金)  
兵庫県公立高等学校PTA連合会第3回理事会
- 令和7年7月13日(日)  
第50回近畿大会(兵庫)アクリエ姫路
- 令和7年8月21日(木)～22日(金)  
第74回全国大会(三重) 場所：サオリーナ 他